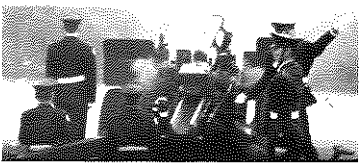


「即位礼正殿の儀」における礼砲

編纂委員会

陸上自衛隊第1師団隷下の第1特科隊は、10月22日の「即位礼正殿の儀」において天皇陛下の御即位への祝意を表す礼砲を発射し、式典を支援しました。

安倍首相の万歳三唱に合わせて21発の礼砲が周囲に響き渡り、無事、任務を完遂しました。



第1特科隊が編成した礼砲部隊。皇居から850m離れた北の丸公園において105mm榴弾砲4門で実施しました。

(出典：陸上自衛隊Twitter)

礼砲数は、「栄誉礼等及び礼砲の実施要綱について(通達)」において、3秒ないし5秒間隔で、元首、大統領及び皇族に対しては21発、首相、副大統領及びその他の国賓に対しては19発、閣僚や大将に対しては17発等と定められています。

安倍首相の「天皇陛下、万歳」の掛け声の最初の「て」の発声と同時に「撃て！」と号令、3・5秒後に砲声が宮殿に到達しました。日本中

のみならず全世界が注目する中で、礼砲の実施は、極度に緊張する状況の中で行われたと思います。寸分の狂いもないタイミングは、礼砲部隊の精強性と練度の高さを証明しています。

第1特科隊は、陸上自衛隊で唯一、国賓・公賓の来日に際して礼砲を実施する部隊で、山梨県唯一の駐屯地である北富士駐屯地に所在しています。同駐屯地には、他に部隊訓練評価隊(通称、「富士訓練センター(FTC)」)等の諸隊が駐屯しています。北富士駐屯地は、日本で最も高所であり、その標高は964mです。礼砲は国際慣例に従って行われますが、日の出から日没までの昼間のみに行われます。

その理由は、昔の軍艦が外国の港に入港する際に空砲を撃っていた時代にまで遡ります。空砲を撃つた大砲は艦内に引き戻すことなく外に突き出したままにしておきます。当時は砲口から弾を装填していましたが、もう再装填はしない、つまり攻撃の意志はないということを表しました。しかし、暗くなればその状況が目視で確認できないので、礼砲は明るいつきにしかやらないという儀式になりました。

「即位礼正殿の儀」において、見事に任務を完遂した第1特科隊に心から拍手を送ります。(文責 佐藤止)